平成29年度　第1回那覇市総合教育会議議事録

署名人　饒波正博

市　長　城間幹子

1 開催日時　平成29年（2017年）8月17日（木）10時00分～11時30分

2 開催場所　那覇市役所10階　　1001会議室

3 出席者　　城間幹子那覇市長
　　那覇市教育委員会：神村洋子委員長、本仲　範男委員、饒波正博委員
　　比嘉　佳代委員、渡慶次克彦教育長

4 協議事項
「第5次那覇市総合計画基本構想（素案）」について
(1) 第5次那覇市総合計画基本構想（素案）の進捗状況について
(2) 第5次那覇市総合計画基本計画施策体系（案）について

5 出席職員
生涯学習部：屋比久部長、山内副部長
　　（総務課）仲程課長、森田副参事、伊禮主査、奥浜主査
学校教育部：黒木部長、森田副部長
　　（教育相談課）神谷課長、平良主幹、泉主幹
企画財務部：（企画調整課）稲福副参事、玉那覇主査

6 事務局職員
企画財務部：渡口部長、仲本副部長
　　（企画調整課）幸地課長、佐々木主査

7 傍聴人　　1名

8 議事の経過　　次のとおり

平成２９年度　第１回　那覇市総合教育会議

平成２９年８月１７日(木)

城間市長　　ハイタイ　グスーヨ　チューウガナビラ　アチサンビーヤータイ　ウガンジュウークラソミーソー　チャービラタイ。

教育委員の皆様方には、昨年度「こどものみらい応援プロジェクト ～ 子どもの貧困対策 ～」について、ご意見を頂戴いたしました。今後も皆様の市の教育の方向性など議論を交わしながら、ご意見をいただきながら、本市の教育の向上に努めてまいりたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

それでは着座にて議事進行の役目を仰せつかっておりますので、発言させていただきたいと思います。本日は冒頭、事務局から説明がありましたように、協議事項が１件、報告事項１件というふうになっております。では早速、時間が惜しゅうございますので協議事項に移りたいと思います。説明内容は２件ございます。まず一つが(１)として第５次那覇市総合計画基本構想(素案)の進捗状況について、(２)第５次那覇市総合計画基本計計画施策体系(案)について、それでは、企画財務部　企画調整課より、説明内容(１)について、まずは説明をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

企画調整課　　説明資料１　第５次総合計画基本構想・基本計画　　＊概要説明は省略

説明資料２　第５次那覇市総合計画基本構想(素案)　＊概要説明は省略

城間市長　　今、担当のほうから説明がございました。まだ途中の段階でありまして、審議会とのやり取り等々が残っているという段階での説明になりますが、ここまでの説明におきまして、皆様方からご質問を、まずはお受けしたいなというふうに思うんですけど、いかがでしょうか。ご質問がなければ、質問、意見等々ということで、時間を節約と言うんでしょうか、大事に使いたいと思います、いかがでしょうか。はい、神村委員、どうぞ、お願いします。

神村委員　　素晴らしい感想を持ってお聞きしました。大変、緻密に仕上がっているなということを思いました。只、最初のほうで、第４次との違いはということがありましたけれども、もう少し詳しく、第４次との違い辺りを、もう少しこんなところが違うということを、ちょっとお尋ねしたいんですけれども。

城間市長　　では事務局、強調してＰＲをお願いいたします。はい、お願いします。

企画財務部　　企画財務部の仲本でございます。よろしくお願いいたします。那覇市の総合計画につきましては、この５回、第５次をこれから迎えることになりますが、２０年前の第３次の総合計画の際から市民の皆様と協働でというところを、大きなテーマとして掲げて参りました。この案の協働という手法につきましては、この第５次に至るまでもしっかり引き継いでいくと、更にそれを進化させていくというところが、第４次との

違いが一つ、これがプラス面での違いでございます。２点目に内容の部分で申し上げますと、先程の説明でもございましたが、やはりこれ行政の計画でございますので、広範な守備範囲を持ってございます。方々至る所に持っていますので、それを時々の重点項目に沿って、ある程度のグループ化をしていかなければいけないというところで、今回の特徴としましては、防災という部分をやはり市民の皆様とより近いところで自助共助という観点が非常に重要な分野でございますので、そこの範疇にこれを括ったということが一つと、環境という部分につきましては、第４次の中では環境の事態というふうな大きな旗印がございましたので、これを独立して分野として掲げておりましたが、第５次の今回の想定では、やはり環境は、勿論、環境の重要性というのは、当然、これ踏襲していくわけでございますが、都市基盤とそれも両輪一体の関係があるということで、第５次に当たっては、ここを一つのグループにしてまとめたというところが大きな特徴となっております。

城間市長　　よろしいですか。そのほかにいかがでしょうか。はい、お願いします。

饒波委員　　３ページですけれども、指摘するに留めておきたいと思うんですけれども、こちらの真ん中のほうに、家庭や地域、学校が一体となり、子ども達をあたたかく見守る環境が必要であり、市内の小学校をその拠点としますということで、その拠点という言葉なんですけれども、子どもの貧困の時には、プラットホームという言葉が使われたり、いろいろとしたので、ここでもそれが出てきたなということで、後でまた基本計画の時に出てきますので、意見したいと思うんですけれども、拠点という言葉をちょっと心にとめておいてくださいということを、取り敢えず今、言っておきます。

城間市長　　ほかにいかがですか。はい、どうぞ。

渡慶次教育長　事務局の説明はこれで終わりと言うことですよね。第４次総合計画の時の１０年前、たまたま、私は企画にいて、私がやったんじゃないんですけれども、隣に座っている人が担当していて、大変な作業だなと思って見ていました。あれから１０年、早いなと思うんですけれども、たまたま、この時期にこの部署にいるために、これを担当させられる部署は大変だなと思います。ここまで細かく積み上げたことに対して敬意を表したいと思います。１０年間という計画、那覇市の最上位の計画ですから、これをまとめるにあたって、ご苦労をなさった職員はいずれまたこれが一つの財産となって残ると思いますので、これからもまた頑張っていただきたいと思います。私、提言というよりも、この第４次から第５次に向かうにあたって、少しばかり感想を述べてよろしいでしょうか。最近の新聞、昨日、一昨日かな、沖縄タイムスは８月１０日、琉球新報は８月１５日の新聞に載っていました。「若狭公民館　曙出張」という記事でございます。城間市長は行かれていると思いますけれども、この曙という地域、公共施設が中々なくて、那覇市の人材育成施設整備基本構想の中にも入っているんですけれども、中々、曙地区に公共施設、公民館、図書館が作れなくて、非常に困っている

所だったんですけれども、「若狭公民館　曙出張」という、この記事を読んで指定管理をしている公民館なんですけれども、やっぱり直営では非常に難しいようなことが指定管理者となった館長含めて、非常に良いことをやってくれたなと、これはやはり移動公民館という形で挑戦をしているんですけれども、この館長　宮城潤さんが言っているのは、施設ではなくて、中身が大事と、地域づくりの主体は住民であることに気付くきっかけにしてほしいということで始めたらしいんですけれども、私達としてはやはりこの曙地区が非常に気がかりで、公共施設がなかったということで、定期路線バスも少ないと、子ども達は、この曙小学校卒業すると国道を超えて少し離れた安岡中学校に通うと、そんなに恵まれた環境でないような地域に、この公民館の活動としてここまで手を伸ばしていただくということに対して、非常に敬意を表したいということでございます。私達としては第５次総合計画に向けて、やはり生涯学習施設とか、公民館だとか、図書館とか、そういった物で、なるべく施設として提供したいんですけれども、今後、第５次総合計画に向けて、中々、施設として作ることが出来なかった真和志南地区、真和志南地区に公民館とは違いますけれども、活き活き人材育成施設ということで、こういった施設を作るので、第５次総合計画に向けて、公民館活動も非常に活発化していきたいなと、それから人材育成施設と言う物も活発化していきたいなと、第５次総合計画に向けて頑張っていきたいという気持ちで終わります。

城間市長　　はい、ありがとうございました。今、本当、本来ならばと言う、その公民館のあるべき形というものも、私も承知はしているところですけど、中々、上手くいかない、ないないないということで、出して待つのではなくて、積極的に関わってくれたということで、先程出ました若狭公民館への企業法人の、その若狭の皆様方に感謝をしたいと思っています。

渡慶次教育長　序に付け加えてよろしいですか。ちょっと話が長くなったら止めてください。公共施設、曙には少ないということで、元々、若狭公民館の範囲が曙まで入っているんですよね。曙の人からすると、若狭公民館は、中々、遠くて活用できないと、それで若狭公民館が積極的に向こうに飛び込んでいったということと、それから児童館についても、若狭児童館は、元々、曙にも入っているんですけど、これまで何か催し物をする時に、曙まで声をかけているんですけれども、やっぱり振り向いてくれないと、ところが、今回、若狭児童館の館長が子ども達を集めて、久米島に体験研修をするということで声をかけたら、曙から結構沢山の人が応募なさって、総勢、保護者含めて１００名の人達、生徒は６４名位ですね。久米島に連れて行くことになりました。これも若狭児童館の館長　南さん、繁多川公民館も、結構、活躍しているんですけれども、繁多川公民館の南さんと若狭児童館の南さんは、親子揃って社会教育活動を熱心にやっているということで、これも私達は指定管理者制度ということを有効に活用して頑張っていただいているということに対して敬意を表しておりますので、若狭児童館

も、今回、手を組んで大きく広げて活動しているということでございます。今後も第５次総合計画に向けて、いろんな意味で地域とのつながりを広げていきたいと、それに協力もしていきたいと、そういう気持ちでございます。

城間市長　今、一応、この様に情報提供していただきましたが、教育委員会もその第５次総合計画、総計に向けて、その自分、自らのポジションの中で積極的にこういう取り組みがおこなわれているということの紹介があったということだと思います。はい、どうぞ。

神村委員　まちづくりの将来像のところで、ＮＡＨＡと言う、ローマ字と言うんですか、英字が入ってきたんですけれども、これは初めてですか。大きな意味を持っているのかと、只、若い人に全部こう入っていると言ったんですね。何かとっても良いという感じで、若いこの教員でしたけど、何かとっても斬新な感じがすると評価を私は受けたんですね。見せた時に。これは何かやっぱり特別な意味を持って、こういうふうに使われているのでしょうか。

城間市長　はい、お願いします。

企画財務部　このローマ字表記のＮＡＨＡにつきましては、第３次の総合計画の際にも言葉字面としては出て参りました。しかし、今回は、それぞれの５つの目指すまちの姿、冒頭の、まちづくりの将来像を初め、その下につながる５つの目指すまちの姿に、語尾をＮＡＨＡということに整えてございます。これは市民の皆さまに、平成２８年度中に、市民協働大学院でご議論をいただいて、そこからご提案をいただいた言葉でありますが、やはりこれからの国際化を充分に意識したいというようなメッセージを頂戴しているところでございます。又、このローマ字(ＮＡＨＡ)だけではなくて、１ページ目をご覧いただきたいのですが、説明資料２の、１ページの２の、まちづくりの姿勢のその上の行でございますが、そこに市民の笑顔が広がる「わった一自慢」のなは、那覇、ＮＡＨＡを、ひらがなのなは、漢字の那覇、ローマ字のＮＡＨＡ、これは那覇の多様な側面をもって、ここでしっかりと表していきたいと、そういう意味合いも込めてございます。

神村委員　何か自分勝手な構想ですけれども、子ども、そういう年代的なイメージも持たせてあるということではないんですね。多様性な、このローマ字の表記に関しては、やっぱり国際化を見添えているかなというふうにやっぱり感じました。

城間市長　字面の持つイメージですね。

渡慶次教育長　最初、読んだ時に、せんだみつお氏を思い出しました。ひらがなのなはと、漢字、アルファベット、至るところに出てくるので使い分けをしているということですかね。

企画財務部　はい、ＮＡＨＡにつきましては、国際都市を意識しているものでございます。

渡慶次教育長　漢字は。

企画財務部　漢字はやはり風格のある那覇と、ひらがなのなはは、少し柔らかい側面を持たせて

いると、因みに、この「なは、那覇、ＮＡＨＡ」につきましては、市長の応接室に立派なバックボードが用意されているんですよ、その中にも同じように、この３つの字体で「なは、那覇、ＮＡＨＡ」と表記されております。

城間市長　ありがとうございます。ほかにございますか。はい、どうぞ。

比嘉委員　５ページのほうの、重点取組事項のほうの、多分、教育とつながると思うんですけど、つながる「力が」広がるしくみづくり、小学校区単位を中心に、自治会、学校、ＮＰＯ、企業等というところの中の、学校のほうには、この保育というか、未就学の部分はどうなっているのかなというのが凄く気になって、先日、県の幼稚園教諭の研修に行った時に、やっぱり未就学の教育を小学校にどうつなげるかというのが、これからの子どもの「力」を伸ばすのに、一番大切だということのお話を伺って、そうだなということを実感しているので、その未就学に対する表記がこの全体の中で、見当たらないなと思っていたので、その未就学保育、教育の部分はどういうところでカバーされているのかなというのが、ちょっと構想をお聞きしたいなと思っています。

城間市長　いかがでしょうか。未就学児、つまり小学校区を単位としていて、学校となると幼・小・中で、その個々はどうするんだという、その部分のご指摘だと思うんですね。はい、どうぞ。

企画財務部　只今、ご指摘の箇所につきまして総論としましては、３ページ目ですね。子ども・教育の部分で、次世代の未来を拓くというような括りの分野でございますが、この中で子ども全体をイメージしてございます。この字面として未就学というような言葉は使ってございませんが、ここの分野の下に、それから基本計画というものがぶらさがっておりますが、その中ではその妊婦からの対応を含めて、次世代を担う子ども達を幅広く捉えて記述としてございますので、私どもとしましては、ここでしっかりと対応して参りたいというふうに考えております。

城間市長　はい、ご理解いただきましたでしょうか。今回は仕組みということですので、いわゆる自治会・学校・ＮＰＯとか、それぞれ組織を持っている、そこがつながるということのイメージで来ていると思います。まぁ企業等ということでやっています。挙げるといろいろあるでしょうけど、明記はしてないんだということの返事だったかと思います。よろしいでしょうか。

渡慶次教育長　恐らく今のは、このタイプには入っていないということで、下のほうに子育て支援と就学前教育とか、そういった分野の中に入っていると思われます。

城間市長　以上でよろしいでしょうか。（１）について、よろしいですか。それでは説明内容の（１）については、以上で終了してよろしいでしょうか。

全員　異議なし。

城間市長　はい、それでは次に移ります。今、ご意見ということで、回答と言うんですか、受け答えをしていただきながら事務局から説明等をしていただきました。今後、説明を

進める場合には、関係者との調整を密にしながら、細やかな対応をしていくということで、ご理解をいただきたいと思います。

それでは説明内容の(2)に移りたいと思います。引き続き企画財務部に説明をお願いいたします。

企画財務部　説明資料３のほうになります。こちらのほうは基本構想を受けまして、基本計画の策定となっております。現在、基本構想が６月に策定されまして、これを受けて各部署で基本計画を策定して再度お願いしまして、現在この案がまとまった形で最近出てきたものが、このような形になっております。その具体的な内容につきましては、審議会等で審議しておりまして、流動的な場面がありますので、内容については割愛をさせていただきまして、体系的な部分でのご説明をさせていただきやいと思います。

(2)第５次那覇市総合計画基本計画(原案)について　＊説明資料３　概要説明は省略。

那覇市長　はい、粗々ですけれども説明をさせていただきました。はい、どうぞ。

本仲委員　例えば、１ページのですね、施策の２３の中に、ちょっと細かく見てみますと、小中一貫教育というのがありますよね。今日の資料の中にはありませんけど、ちょっと私達は教育委員会で、ちょっと勉強した中の資料なんですけれども、その中で、これからすると、施策の２３に当たると思うんです。これをもう少し詳しく見てみますと、小中一貫教育ってのがあってですね。那覇市は、平成２４年以前から小中一貫教育を目指しているということについて、私は現場に居た関係上、非常に興味があったんですよね。それで、今、小中一貫教育がどういう状況かと言うと、平成２８年度までに全校実施になっていると、そしてこれが第１ステージとして位置づけていますよね。それから平成２９年度～３１年度の３年間が第２ステージということで位置付けています。その後が第３ステージということで、小中一貫教育が、その後、確立していて、それで課題も解消していて、そして小中一貫教育の予算を残すというところまできているわけですが、この第２ステージの平成２９年、今年ですね、今年、来年、再来年の３年間を非常に大事な時期じゃないかなと考えているんです。この３年間で、この課題が沢山出てくるでしょうから、その課題に対する取り組みであるとか、カリキュラムマネジメントを充実させるとか、那覇市の教育実践が、今、行われている訳ですけれども、ここに非常に力を入れるべきところじゃないかなと思っています。その後にこの平成３２年度以降の小中一貫教育が、この３年間の成果によっては確立していくんじゃないかなと考えているんです。只、今、私が見た資料を市長はお持ちではないので、ちょっと細かいことは言えませんけれども、その中の小中一貫教育は非常に興味を持って見ているということと、向こう３年間が非常に大事だなというような捉え方をしている訳です。そして、その中で一つお願いしたいのは、小学校１年生～中学３年生までの９年間の、英語の内容の系統表の作成が是非必要じゃないかなというようなことを、現場に居る関係上、非常に強く要望したいなということです。今から

これエネルギーを使うんじゃなくて、昨年行かしていただいた、奈良県の、奈良市の小中一貫教育の大会の時に、その系統表が既に出来ておりましたので、この辺のところを参考にしながら、この３年間で教育委員会、頑張ってもらいたいなというふうに思っているところです。

城間市長　　ありがとうございます。今、英語という言葉が出ましたけれども、ご存知だと思うんですけど、大学において英検の取得であるとか、或いは英語の話せると言うようなそういった力を重視していくというようなことが、文部科学省から大学教育の改革の中で説明がありました。やっぱり国際的な人間を作るには、小さい時から耳の柔らかいうちからっていうのはありますので、今、出ました英語教育に関するこのカリキュラム系統表等々、教育委員会のほうでしっかりとまとめ挙げていただきたいなという思いです。はい、どうぞ。

渡慶次教育長　小中一貫の話が出たので、先程、おっしゃたように平成２４年度からテストケースから始まって、去年、平成２８年度で那覇市の全ての小中学校、これは本仲委員もおっしゃっているように、ずーっと継続して続けていかないと何の意味もないということですので、今後、ずーっと続けていくんだろうと思うんですけど、これのまず１つの大きな効果として、問題となっている中１ギャップの解消、いじめの件数で一番多いのが中学校１年生、ですからこの中１ギャップというものの中に、いじめの原因の中にこの中１ギャップというものがあるとすると、この中１ギャップを無くすことによって、いじめも減るだろうと、もう１つは不登校、それから深夜徘徊、そういったものは、小中一貫教育が学力向上の為ということだけではなくて、問題行動とされる、この３つの深夜徘徊と、それからいじめ、これを無くすということの、その小中一貫教育の中で含めてやっていただけないかなと感じですよね。不登校については平成２３年度の資料と平成２８年度の資料で減少していると、補導件数も減少しているということですので、これもずーっと続けて、学校だけでは出来ない、他の団体にも協力していただいて、小中一貫教育がずーっと続けて行っていただきたいなと思います。

城間市長　　はい、どうぞ。

神村委員　　小中一貫教育が出ましたので、いろんな案件の内容は、委員会のほうでリードしていくと思うんですけれども、どうしても財政的なものが絡んでくると思うんです。ですから、いろんなことに那覇市がこう財政を振り分けながら、素晴らしい那覇を作って行こうと考慮されていると思うんですけれども、やっぱり小中一貫教育をずーっと継続していくには、財政的な負担もやっぱり委員会だけじゃなくて、那覇市全体で少し考えていただきたいというのは、思っていましたので、今日出ましたけれども、審議会のほうから関わっていましたので、それについて、大変、気になるところでした。以上です。

城間市長　恐らく、ここまでの流れで、こう言わずとも、こういう流れということは、私も感じております。はい、そういうことの話だと思います。確かに私も教育現場にいまして、教育委員会に居ましたので、小中一貫教育の効果というのは、絶大なものがあるということを感じています。那覇市の、紙面をこうやる、賑わす、いろいろな子ども達に関する事件、事故等々、何年か前に比べたら、もう極端に減ってきているということは、もう実感として解りますし、先生方の動きも、それから動きもその小中一貫教育をやることによって、大分変わってきたということを、声も聞こえてきますので、そういう意味では、小中一貫教育は学力の向上のみならず、そういった人間の人格の形成という教育の崇高な一番上の上位目標が達成に近づくような手法であることは間違いないと、私も思ってはおります。その辺りでそれをどう捉えて、担当のほうで受け止めてくれるかというのは、これからの教育委員会からのいろいろな資料に基づき、アピールの具合も関わってくると思います。その点は皆さん方も受け止めておいていただきたいというふうに思います。他にこの(2)について、先程、おっしゃったように、はい、どうぞ。

饒波委員　学校が、いろいろなことの拠点になるということなんですけれども、こちらでも施策の２７で生涯教育の欄に出ているんですけれども、子どもの貧困にしろ、地域の子ども達にしろ、学校が拠点になるという内容が出ていますね。那覇市が去年出したファシリティマネジメント推進方針ということで見ますと、公共施設の中の床面積の占める割合というのが、１位が公共住宅、２位が学校教育関係なんですよ。公共住宅はもう私的な領域なので、これを公的に使うということは多分あり得ないと思うんで、そうするとダントツに多いのが、学校教育施設が公共施設として圧倒的に多いんですね。先程、渡慶次教育長がおっしゃった曙地区なんですけれども、曙地区に確かに公民館は無いかもしれないんですけど、学校はあります。曙小学校という立派な学校がありますよね。だから学校という施設は圧倒的に床面積も占めて、且つ、地域に入り込んで既にある施設ですよね。そして後、そのファシリティマネジメント推進方針を読みますと、新規の施設はもう原則造らないというふうになっていますので、今ある施設をどうやって対応化して施設として使っていくかとなると、やっぱり学校施設が使われる傾向が高くなってくると思うんですね。それを学校のほうから見ると、我々、教育委員会のほうから見ると、教育とは違った目的の為に使われることもあるということなので、それに対するコンセンサスというのも大切だと思うし、拠点、拠点と言うんですけれども、このイメージが、中々わかないというか、どういうことなのかなと思う。例えば最大拠点で学校が使われる場合には、避難所というのが明らかに頭にポンときて、そうすると避難所ということだったら、避難所として安全が確保できているのか、或いはその避難所の運営は誰がするのかということは引き出されてくるんですけど、例えば子どもの貧困の拠点とか、地域のコミュニティの拠点、そういった

場合に、どういったイメージを作っているのかということで、もし拠点といった場合には、そのイメージをどう作って、こちらが提示できるかということが一つあると思うんです。後、もう一つは、実際に、ある小学校の空き教室を使って、高齢者のサロンを作ろうと思ったんですね。空き教室はある、校長先生もＯＫと言うんですけれども、結局、最終的には、そのサロンの開催は出来なかったんですよ。その理由はトイレです。高齢者の場合は、和式トイレはやっぱり使えないので、高齢者が集まる所には和式トイレというのは、それだけでもう無理なんですね。だからスペースはあるんだけど、使えなかったということで、もし小学校がそれを複合化して、いろんな目的に使うということであれば、新築する場合に最初から複合化の理念で、そういうのを造るとか。或いはもっと踏み込んで、この１０年間で小学校を複合化して、いろんな目的に使っていくのであれば、改修して、お金を入れて改修して、そこまでやるか、どうかということなんですけれども、そこまで、僕はやったほうが良いと思うんですけれども、新しい施設を造らないのであれば、今ある施設を使うということで、その改修を、複合化する目的の為に改修まで踏み込んで、小学校を使っていくような計画を立てたほうが良いと僕は思いますけれどもね。これは僕の意見です。

城間市長　何か、お答えできますか。この辺りで。はい、どうぞ。

渡慶次教育長　その前に今おっしゃっていたことで、さっき公民館の有効活用を広げていくと、その中で言い忘れたんですけれども、学校の地域連携施設、これもやっぱり学校が持っている所は有効に使っていったほうが良いなということは、前から言われていることでね。例えば、銘苅小学校の地域連携施設はジュニアオーケストラ、定期的にあそこを利用して、子ども達の練習場にしていると、ですから地域連携施設の活用方法についても、地域だけではなくて、あっちこっちからこう来て活用できるような、必ずしも地域ではない活用というのは有る筈なんですよね。ですからこの辺の活用方法も含めて、今ある学校の中の設備をどういうふうにして利用するかというのは、大きな話し合いになるのかなと思います。以上です。

城間市長　はい、お願いします。

生涯学習部　今のトイレついては、確かに高齢者の方にやっぱり和式のトイレが、中々、使えないという、今の小学生もそうなんですけれども、今、我々、生涯学習部としては、クーラーの設置、これまでクーラーの設置、それと耐震化、その次に来るのがやっぱりトイレの洋式化ですよねということで、部内ではミーティングをしているようです。ですから、勿論、それを地域の学校の対応に合わせて、整備していくという考え方もあるんですけれども、我々、やっぱり生涯学習部としては、元々、やっぱり洋式化というものも急がれますよねという認識は持っているところです。

城間市長　はい、どうぞ。

饒波委員　トイレだけじゃなく、地域で使うとしたら、やっぱり地域の人達と話し合って、バ

リアフリーするとかですね。色々なものがあると思いますので、そこまで手を入れるかどうかですよね。そこが問題なんですよ。

城間市長　　必要とあらば状況に応じては、やる、やりませんではなく、やる方向でということになろうかと思います。はい、どうぞ。

渡慶次教育長　先程、学校の利用方法で、避難所とか、そういった方法があると、只、避難所にするにも、耐震化がされているかという問題はありますけれども、この１ページの２４番ですかね。学校施設の補修・整備をすすめ、安全・安心な教育環境という中で、例えば、今、クーラーの設置、大体進んでいるんですよ。それから耐震化も進めているんですけれども、今の、このクーラーの設置と、耐震化の状況と、第５次総合計画に向けてどういうふうな形で整備して行くのかというのを、ちょっと教えていただきたいなと思います。

城間市長　　はい、どうぞ。

生涯学習部　　先程、少しお話しましたけれども、クーラーの設置ですけれども、中学校においては、昨年、平成２８年度で普通教室については、全て完了をしております。小学校につきましても、現時点で９６％なんですが、本年度中に１００％の、普通教室については予定をしているというところです。特別教室についても、図書室・音楽室・専門理科室といった所は１００％なんですが、理科室等は、中々、普段あまり使わないように、この部分は、まだ半分程度ございますけれども、今後、設置について検討しているというのがクーラーの設置状況でございます。それから耐震化でございますが、沖縄は特に遅れているということで、その中でも那覇市は結構遅れているということで、全国でもワースト４位ですかね、というところで、昨日ですね、文部科学省のほうから指導ということで、お話をいただきましたけれども平成２８年度は７８％、２２８校中５０校、まだ残っていると、今年度、整備を進めて、今年度末で３７校に減らして、それでも８４％になると、我々の目標としては、平成３５年度までに１００％達成しようと、更にこの３年間、平成３０年・３１年・３２年度で９５％程度まで上げていこうということで、ですからこの３年間が、非常に我々としても頑張りどころであるというふうに考えて、平成３５年度までには、しっかりと耐震化を改善したいというふうに思います。

城間市長　　先程、饒波委員から出ました拠点化という言葉に関して、どなたかありますか。はい、どうぞ。

生涯学習部　　実際、今なんですけれども、新しいＴＴＰの仕組みづくりというものを、教育、子育て、福祉、それと健康、市民文化部ですね。私も入って入るんですけれども、部長を構成員とした組織で今作っている所でございます。それは何故かと言いますと、小学校のほうも拠点化してどういった仕組みづくりが出来るかと、今までは小学校区分でなって、今、自治会があるんですけれども、自治会の借りる率がかなり低いという

ことと、そして活性化が悪いと、ある所では、又、民生員・児童員というところの協議会があるんですけれども、それも、又、１６今あるんですけれども、それも、又、区域的に悪いということがございまして、どうしてもＰＴＡの活動と、そういったつながりが無いということがございますので、今現在ある小学校校区のコミュニティがあるんですけれども、与儀小学校を筆頭に６つですか、今、出来ているんですけれども、そういったことを徐々に広げるということではなくて、広がりがちょっと遅いものですから、じゃー、どのように広げるかということで、その地域にあった活動があるだろうということでございますので、それを今、平成３０年度にはモデル的にやっていくということで、早目、早目にスピーディな動き方をすると、当然、饒波委員がおっしゃいました、施設の改修ですか、そこまでちょっと頭が回っていなかったものですけれども、もう一度言ったことが必要でしたら、材料費も含めて、そういった改修を、城間市長もおっしゃっていましたので、やらないんではなくて、どういった改修が必要なのかということも含めまして、考えていく必要性はあるのかなというふうに、今、感じたところです。

城間市長　京都大学とか、京都大学院で、私もお話させていただくときに、今の渡口部長が話したようにですね、那覇市のイメージとして、小学校校区まちづくりを、まちづくり協議会を作れば、福祉それから教育、子育てというような、そういった部門が、防災も、大きなあれですが、ある程度、那覇市内に網羅されていく組織が出来るんじゃないかということなんですね。それで小学校校区、小学校を拠点とした小学校校区まちづくり協議会ということを進めて行こうと、与儀小学校校区はもうスタートしてあれなので、ある程度定着しつつある地域ではあるんですが、まだまだ、只、その曙小学校で銘苅小学校のまちづくり協議会を見ていただいて、１年間、勉強をしていただいて手を挙げたと、１年間、勉強して、２年位掛けてですかね。こう手を挙げて出来上がったと、そしたら非常に元気に、元気というか、いろいろなアイデアが出て来てですね。その若狭のほうからも来てはくれたんですけれども、受け入れる体制が出来ていたということで、非常に、今、良いコラボが出来ているんじゃないかというふうな構想でいるわけです。その拠点という言葉一つ作ると、ハード的な拠点もあるんですよ。空間を提供する拠点と、そうでなくてソフト面で、つまり皆が気持ちを寄せ合うような拠点、両方、ソフト、ハードの拠点づくりが出来れば、那覇市として厚みのあるまちづくりが出来るんじゃないかなと、何時もイメージをしているところです。はい、どうぞ。

饒波委員　今、ハードの面であったんですけど、今度、ソフトの面ですよね。その学校を拠点とした場合に学校に負担感がないのか、学校側は常に心配していますよね。この間、熊本のほうの、被災地の避難所になった校長先生が沖縄に来られて、その講演を聞いたんですけれども、避難所をほとんど誰が運営していたかというと、校長先生なんで

すね。一応、基本は市役所がやる筈なんですけれども、下まで回らないので、結局、自分がやったということで、それでまとまったということですが、それじゃ学校は大変だと思うんですよね。だからその辺をソフト面のことを。

城間市長　小学校校区単位のまちづくりをしようとした時に、私がこの仕事に経って、今で2年～3年くらいかな。校長会で冒頭、他地区からいらっしゃる方々もいらっしゃるので、お話をさせていただいて理解を得るように、まだ私のほうからお話をさせていただいているんですが、今の災害の場合は、誰が中心になるかわからないんです。この間、少しまた話があっちこっちいくんですけど、宮城県、東日本大震災の時には、たまたま学校で卒業式を前にしてということで、先生方も居たということで、学校の先生方も、まず拠点になりました。ところが彼らも被災をしている訳ですから、1週間経ったら校長が帰れと言って、ガソリンが無いとお互いが持ち寄って、遠い人を帰したと、そんな話まで、エピソードまで聞くような状況を私も聞きました。ですがそこに、学校に誰もいない時に、さー、どうするこの災害が起きたこの避難所運営はという時の為に、先日、那覇市で防災の訓練をやったんですけれども、職員の訓練をやったんですけれども、防災士が、防災士ではなく、防災推進委員で、各課にいる、災害に関する推進委員で、彼らを集めてグルーピングをして、その避難所運営のこのあれをやったんですね、私がこの担当のほうに話したのは、これを職員が行けない、職員が行けない場合もあるんだと、その地域、地域で運営出来るように、それぞれの地域でそういった訓練が出来るように、つまり地域住民がですよ。地域住民の皆さんが率先して出来るように、訓練、こういう場面のイメージを作る為に入ってもらえないかということを、私は担当に話しました。正に、どの場面で起きるか解らない災害ですので、学校の、たまたまその時は学校ということで、校長先生がということでしたが、でもやっぱりいらっしゃるのは地域の方ですので、地域のリーダーがいないといけないということも想定できますので、だからいろんな場面、場面を考えて市民の皆さんに提供していくのが、我々、行政の役目かなというふうに思っています。はい、どうぞ。

神村委員　城間市長がおっしゃった校長会でお話したことを何回か聞いてきましたけれども、やっぱり一番この施策の中で、多様なつながりというのが一番大事かなと思います。震災のこともありましたし、私は、前に住んでいた久米1丁目自治会で事務局をしていたんですね。その時に最終的に災害が起こった時に、何処にどのお年寄りがいらっしゃるということを、把握できているかということを自治会で話題になったんですよ。そしたら、あの久米1丁目自治会の、あれだけでも把握はできない、そして自治会に加入していない時はどうするんだとか、誰が、誰がこうやるんだとか、いろんな話が出ても、それは私達の話の中で終わりました。今回、行政がこういうふうに動きまして、こういうふうな計画をして、そういう市民もそういうふうに勉強を重ねていくと

かね。一番大事かなと思うんですね。だから自治会・町会とかですね、そういう所を通じて、そういう組織づくりとかですね。それからどこと連携をすればいいのかということを、折に触れてこの協議会は出来上がってないまでも、そういうことは早目にするべきかなと思いました、その時に、解らないんですね。次にどう動くのというのが、自治会というのは、ほとんど女性なんです。会長さんも女性が多いと思います、今は。ですから何かこういう時になったら、男性の力もほしいなというのが本音なんですね。でもそういう分、班長さんなり、いろんな活動をしているのが女性であるし、又、きめ細かい点では女性のほうが少し助かるかなと思うんですけれども、そういう全部を、全員がこういうふうな認識を持てるような、そういう那覇市民を作っていく必要性とかは感じてきましたね。以上です。感想です。

城間市長　自治会長さんは、この地域は女性が多いです、確かに、久米、若狭、この方面は、全体的には、やっぱり男性が多いと思いますね。

神村委員　ああそうですか。失礼しました。

城間市長　はい、どうぞ。

比嘉委員　子どもの居場所から、２１～２７のちょっと少しずつ網羅すると思うんですけど、子どもの遊び場の問題と小学校の拠点の問題が一番今後の課題かなと思っていて、学会の報告であったんですけど、子どもの自然発生的な遊びが、人格形成や体力を作るというのに一番効果があるということで、プログラムされた物よりも、遥かに自然発生的な物が良いということの中で、放課後に遊びに行こうとすると、小学校は放課後終わったのでと追い出されるし、地域で遊ぶとうるさいから小学校に行けと言われると、行ったり来たりを毎日している子ども達のその人格形成の場所というのをどうしたら良いのかなというのが、課題になってきているなと思っているので、やっぱり小学校の拠点のハードな部分での、そのプログラムではない、普段の子ども達の居場所づくりというか、その学童にも何も入っていない子ども達だけではなくて、学童保育単位で使ったりとか、小学校に入っている学童だけで使うんじゃなくて、地域の学童も一緒になって使えるとか、そういうことを今後の１０年は、子どもをどう育てるかというところで、考えられたら良いなというのが、毎日、しみじみ思っていて、子ども達を何処で遊ばせて人格形成をするかというのが、凄く今、放課後の子ども達を預かっている所の課題になっているような気がするんで、そこも含めて今後考えていただければなという気がします。

城間市長　はい、どうぞ。

本仲委員　生涯学習についてなんですけれども、これら施策からすると、２５番と２６番になるでしょうか。先日ですね。那覇地区の家庭教育支援委員会というのがあって、そこのワークショップに参加して来たんですけれども、やっぱり地域が活性化すると非常に好ましいことなんですけれども、どうやらそこで出てきた課題が、指導者が何処に

いるか解らないと、地域で、例えば団体とか、グループで何かをしたいんだが、どういう方が何処に住んでおられて、どういうような専門的な知識を持って、技術を持っておられるとか、そういうような情報がないと、ですからグループや団体で、ある意味では学習、或いは楽しみたいんだけれども、指導者の人材が見つかりにくいということがあったもんですから。ここでちょっとヒントとしてあったのがですね、沖縄県の県体育館には、前はスポーツリーダーバンクというのがあったんですよ。例えばこれからすると、文化的な、或いは学習的なものになると、この辺の番ですよね。そういうものがあるとですね。例えば、先程、比嘉委員が言ったようなことの解消にもつながることでしょうし、そういうふうな物は、今、那覇市にはあるんですか。

城間市長　ります。はい、どなたか。

企画財務部　ご説明申し上げます。施策で言いますと、この２番に関連しますが、本市では、只今、人材データーバンクというものを推進中でございます。又、取りついたばかりでございますので、詳しい広がりはやっておりませんが、あるスキールを持った皆様がリタイアされた、或いはそれ以外の事情等を含めまして、スキールを持った皆様を本市に登録をしていただいて、それを又求めている市民の皆様からこのマッチングを図るというようなものがございます。事例としましては、この銘苅小学校でございましたが、朝のラジオ体操指導員、一応、皆さまはこの人材バンクを経由して活動をしていただいたという経過がございます。まだまだ充分なストックまでには至っておりませんが、将来的な方向性としては、そういうふうに市内のスキールを持った皆様をしっかりとバンクに登録して、それを求めている皆さんにつなぎ合わせていくというような方法を取り入れていくということです。

本仲委員　ということは、今後、周知が、是非必要じゃないかなと思うんですけどね、というのは、今ここに那覇地区の家庭教育支援会議のワークショップに出てくる方達は、かなり地域で活躍している人達だと思うんですよ。ところがこの方達が知らない。そこにまず課題があるなということと、それからこれはやっぱり学校・地域も一緒にこの情報を共有化する必要があるんじゃないかなと思うんですね。只、私も保健体育課にいる時にちょっと関わっていたんですが、かなりこの印刷費とか、予算が掛かるんですよね。それが毎年度、アップデートしなければいけないという課題もありますので、この辺は大変厳しいのかなと思うんですけれども、でも地域には定職して住んでおられる訳ですから、だからそういうふうなものも有効活用できるのかなと思っています。是非、この辺も又、生涯学習の観点からよろしくお願いしたいと思います。

城間市長　今、糸口、窓口と言うんですか、それとしては先程から話のある協働によるまちづくりとか、協働大使の皆さん、そういった所の場面で、私も人材データーバンクに皆さん登録してくださいということは言っているんですが、今おっしゃったようにまだという部分は否めないので、今後、広報活動をどのような形で出来るかということを、

少し頭を捻ってみたいと思います。おっしゃる通り、今、市民が幅広い活動に参加する仕組みと、それから誰もが生涯学習を提供する側は生涯学習になる、その部分については、後、受ける側は、それを使って子ども達に、或いは、他の活動を広げていくということで、正に登録とマッチングとで、かなり高い相乗効果が出てくると思います。ありがとうございました。

はい、他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それではいただいた意見をまとめまして、今後、総合計画の、基本計画の、織り込めるようなことがあれば、或いは、それ以外の教育施策に関して、或いは、那覇市の施策に関して、参考にすることが出来る部分がありましたならば、受け止めていただきたいというふうに思います。

それでは、協議事項については以上ですが、報告事項に移ってよろしいでしょうか。

全員　異議なし。

城間市長　異議なしとのことでありますので、それでは、学校教育部の教育相談課から報告事項として、説明をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。配布説明資料４になるかと思います。お願いいたします。

教育相談課　説明資料４　子どもの貧困対策事業について。＊概要説明は省略。

城間市長　教育委員会関係の、教育相談課の活動ですので、皆さんもお聞きになったと思うんですけれども、具体的にもう少し聞きたいというふうな所がありましたら、或いはご意見等ありましたら、お願いいたします。はい、どうぞ。

渡慶次教育長　子どもの貧困の対策事業として、国から補助を受けている事業もありますし、中々、表に出てこない、あまり知られていない事業もありまして、中々、城間市長に報告する機会もありませんでしたので、改めて城間市長にも報告するという意味でも言っていただいたんですけれども、効果として非常に大きい効果を上げている事業です。只、さっきも言ったように、表に出して成果を言えるようなものでもないような気がして、あまり表だって出てこないんですけれども、相談課としてこういう事業を一生懸命やっているということで、こういった事業が不登校の生徒達を学校に戻すということで、一生懸命やっているということでございますので、何か別の機会で教育相談課というのがあるということも知らない保護者がいるんですよ。ですからどこに相談を言ったらいいかと言うことで、教育相談課に繋げるということをやっていますので、これからも、又、引き続き頑張っていただきたいなということでございます。

城間市長　ほかに何かありますか。はい、どうぞ。

饒波委員　前回、１０月の時にも申し上げたんですけど、対象者ですけれども、未就学の方の家庭或いは児童までも、見据えた支援が出来ればなというふうに思います。

城間市長　例えば、教育委員会関係ではないんですけれども、子どもの貧困対策事業としては、福祉部とかの関係などの部で、部署でやっている、まず子ども食堂、地域の方々に、ＮＰＯであるとか、或いは地域の方々、何人か以上でグループになって、お年寄りも

交えて、食堂、子ども食堂というか、この集まる所をつくって、そこで会話をしながら、子ども達を育てていくというような、そういったシステムが今は出来ていますし、この教育相談課のその内容とは別に、いろんな形でのアプローチで子ども貧困対策事業は、那覇市として、全体としてはおこなっているということをご承知おきいただきたいと思います。又、そこで実際に関わっている方々の課題と言うんですか、困ったなという、子ども食堂をやっていて、一生懸命にご飯を作ってあげるけれども、いわゆる、躾け的なことがなってない所があって、火の傍にこう来たり、或いは、こう廻ったりとか、この子ども達の、いわゆる躾け的な指導とかいかないけれども、躾け的なことは私達でどうやったら良いんだろうねと言う、悩みが地域の方には又あると、いわゆる、お母さんはどうしたと言ったら、朝から行っているという子ども達が多いわけですよ。だから土・日になっても、向こうに行きなさいと言って、ここに行かされる、食堂に、というようなこともあって、親をどうしようかとか、というようなもう派生することはもう目に見えているんですが、新たな課題があって、その相談は何処に行ったら良いかねというような子ども食堂を経営している方の声を、実際、私も聞いて相談に乗ったんですけれども。これをやれば終わるということは、中々、無いような気がするんですね。只、教育委員会の皆さんに於いては、この教育相談課の本当に１対１でとか、場面に応じたこういう教室を持って手当をしてくださっているということは、大変、有難く思います。只、まさに今の子どもの貧困対策事業は、一つの部署で終わらず、月に何回か、こどもみらい部、福祉部、学校、それぞれで、事あるごとにこう集まって、いわゆる横軸を指すような運営をさせていただいているということをご理解いただきたいと思います。

渡慶次教育長　高校の進学率も良いでしょ。

教育相談課　学習支援室「てぃんばう」というのがありますけれども、７５名受験しまして、７２名が高校に合格という報告を受けております。

城間市長　その子たちの追跡調査はされていますか。

教育相談課　追跡調査も。

城間市長　是非、追跡というと言葉は悪いんですけど、卒業しても見守っているよという気持ちを持ってもらう為に、声掛けというのは必要だなと思います。

教育相談課　子ども達全員に声掛けしたら、全員良好でありました、一人だけちょっと愚図ついたのがいたんですけど、そんな感じでした。元気づけて。

城間市長　アフターフォローですね。

比嘉委員　うちの保育園に、高卒、夜間の高校を卒業して、シングルのお母さんを３人位雇って居て、丁度、保育の制度で今、子育て支援員とか、保育士対策とか、今やって、この子達をそこに行かせて資格を取らそうと思って、うちの園で独自にやっていて、グループを作って、日曜日に自分達で集まって勉強会をして、高校を卒業しても本当に

マナーも、子育てで、ずーっと走ってきた子達なので、定着させようと思って、資格を取らそうと；そういうのを支援する体制が、那覇市は、今、少し充実して来ているので、そういうのを生かしながら、この子達に自信を持たせようという所で、今、企業で、保育士試験を受けなさいということで応援をしています。みんなシングルで、夜間の高校をようやく卒業した子なんですけれども、頑張っておりますね。

城間市長　職を持って社会と関わると変わってきますからね。親が変われば、子どもが変わりますから。良い情報をもらいました、ありがとうございます。はい、どうぞ。

饒波委員　補助金でやられている期間は終わりがあるわけですので、常に何を残すかというようなことを考えながらやっていただければと思います。

城間市長　那覇市では、今、公言はしているんですが、あんまりまだ浸透していないかも知れませんが、子どもの未来応援プロジェクト基金という、財布を、大きな財布を作りました。そこに声をあげて寄付をいただきながら、この制度がお国や県からの補助が切れた後、平成３３年でしたかね、それ以降も必要な施策が続けて行けるようにということですが、まだまだ頑張らなければいけないと思います。あちらこちらで、私は情宣活動はやってはいるんですが、皆様方も覚えていただいて、是非、宣伝をお願いしたいなと、子どもの未来応援プロジェクト基金です。

本仲委員　これ校長会でも取り上げてやったほうが良いですね。頻繁にね。

城間市長　是非、渡慶次教育長、お願いします。

渡慶次教育長　はい、任せといてください。

城間市長　元企画財務ですから。ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。はい、皆様方にご意見を色々といただきました。ありがとうございました。

それでは、事務局から説明が、今後の予定等であるようですのでお願いします。

事務局　事務局からです。今回の内容につきましては、議事録を作成いたします。作成いたしましたらご連絡するとともにホームページのほうで公表する予定です。又、次回の会議につきましては、協議事項が決まり次第、又、ご連絡を差し上げます。開催についてと共にご案内いたしますので、その際にはどうぞよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

城間市長　はい、それでは、これにて本日の、今年度、平成２９年度第１回那覇市総合教育会議を終了といたします。委員の皆さま、ありがとうございました。

事務局　終了します。